



これまでの調査やアンケートを振り返って

学校では、実態調査やアンケート等の結果を踏まえながら、学校や生徒がもつ課題を捉え、指導・改善にあたってきました。今年、実施した調査やアンケートの結果や状況について、生徒・保護者の皆様と共有したいと思います。以下にまとめたものは、学校運営協議会や小中連携の研修、地域連携に関わる会議などの際に学校の実態として報告・紹介している内容です。

全国学力・学習状況調査の結果・状況〔過去2～3年間の傾向〕より

*学力調査の傾向 国語・数学は毎年実施 理科:令和4年度 英語:令和5年度

◎どの教科も全国・山形県の状況を上回っている傾向にあります

※ある程度の学力水準にあることは、標準学力検査（4月実施）からも明らかになっています。

*学習状況調査(生徒質問紙)の傾向(主なもの)

- ・生活習慣に関すること(朝食・起床時刻・就寝時刻)…大きな差はない
- ・普段、家庭でPC、タブレットなどのICT機器を学習のために使用する状況…大きな差はない
- 普段、テレビゲーム(PC、携帯電話、スマホ等を使ったゲーム含む)をする時間…とても多い
全国・県のピークが1時間以上、3時間未満 豊中のピークが4時間以上と3時間未満
- 普段、SNSや動画の視聴(PC、携帯電話、スマホ等を使ったゲーム含む)をする時間…多い
全国・県のピークが2時間以上、3時間未満 豊中のピークが3時間以上と2時間未満
- 学校の授業以外で、普段、どれくらいの時間、勉強しますか(学習塾やオンラインの学習含む)
…少ない 全国・県のピークが1時間以上、3時間未満 豊中のピークが30分以上、1時間未満

以上の状況から、自学の時間が少なく、ゲーム・動画視聴の時間が多いにもかかわらず、学習の状況は県・全国を上回っており、とても効率よく学習(習得)が進められているか、あるいは学校の授業で習得しているといえる状況です。これは全体的傾向であり個別には差が大きく、ゲームや動画視聴が家庭学習や生活習慣づくりに大きく影響している生徒が複数名います。スマホやSNSの活用については各家庭でも約束を設定し、使用状況の把握も必要と思います。学校では研修会や講話などを行いながら個別の指導も行っています。基本的な生活や学習の習慣を確立するためにも「使い過ぎ」に陥らないよう、バランスよく利活用していくことを検討していきたいものです。

○学校に行くのが楽しい…高い 8割以上の生徒が楽しい(全国・県と同程度または高い)

◎人の役に立つ人間になりたいと思う…極めて高い 9割5分以上(全国・県と同程度または高い)

◎友達関係に満足していますか…極めて高い ほぼ10割(全国・県より高い)

◎いじめはどんな理由があってもいけないことだ…極めて高い ほぼ10割(全国・県より高い)

●自分には、よいところがある…とても低い〔6割程度〕(全国・県より20ポイントほど低い)

●将来の夢や目標をもっていますか…とても低い〔6割程度〕(全国・県より15ポイントほど低い)

学校が楽しく、友人関係にもある一定の満足感を持ちながら生活しているようです。この状況は、普段の授業や行事などでの生徒の表情や行動にもあてはまる様子が見受けられます。人の役に立ちたいという意識、また、いじめはいけないことという常識的な正義感を持ちながら生活できていることが伺えます。その一方で、自分にはよいところがあるという自己有用感や自尊感情が低く、将来に向けての進路や目標を夢や希望として捉える傾向が低いようです。進路や目標が定まっていないことで、そんな自分に悲観的になっている生徒も見受けられます。「夢や希望を大きく持ち、そこにたどり着こうとする意識」と「自分の良さを自分自身で見いだして、自認し、伸ばしていこうとする意識」は、相関的な関係にあると思います。学校では、日常生活や行事での1人ひとりの活躍や良さを認め合い自己有用感を高めること、自主性・主体性を引き出すことをねらいながら教育活動を展開しています。この2つの●には課題意識をもって今後も取組を継続して行きます。

楽しい学校生活を送るためのアンケート〔Q-U〕より 学校生活意欲/学級満足度尺度

鶴岡市教育委員会からの支援を受けて、毎年2回（6月・11月）実施しています。これによって生徒1人ひとりの学校生活に対する満足度や意欲の傾向がわかります。このアンケートの結果や内容は、本人の意向や承認がない限り個別データは公開できないことになっています。学校運営協議会や小中学校での情報交換であっても、全体的な傾向のみの共有で個別な結果は扱いません。ここでは、このアンケートの集計方法のひとつである「支援レベル」をもとに学級や全校の状況を確認していますので、その点をもとに現状をお知らせします。

支援レベルの3段階

一次支援〔担任が行っている一斉指導に自ら参加できる〕

二次支援〔一斉指導に参加させるには、さりげない配慮と支援が必要〕

三次支援〔一斉指導に参加させるには、個別の特別な支援か個別のプログラムが必要〕

学級・学校生活を送る上で、この支援レベルの状況を参照し学習面や生活面の支援方針を明確にして指導するための資料とします。特に、三次支援の場合は、丁寧な個別支援の対応が必要です。

6月調査では、三次支援の生徒は生活面で4%程度〔学習面で三次支援はいません〕

11月調査においては、学習面・生活面ともに三次支援の生徒はいませんでした。これは、学校生活や学級活動が成熟していく中で、学級内での生徒同士や学級担任との関係づくりが進み、それとともに学校生活への満足度が上がってきている傾向にあると判断しています。しかしながら生活面で二次支援レベルの生徒は全校で2割ほどいるので、配慮と支援を継続していきたいと考えています。

いじめの実態〔生徒・保護者アンケート等〕より

6月アンケート 生徒より3件 保護者より0件（把握してはいないが心配している1件）

11月アンケート 生徒より1件 保護者より0件（把握はしていないが心配している1件）

他に、SNSで相手が嫌がるような内容のメッセージを送る 1件（地域等から情報提供）

6月把握の3件は、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりするという事案2件、仲間はずれにされる1件。いずれも解消に向かい、現在は認知されていません。事案によっては、小学校のときからの継続や前学年からの見守りとしてきたものですが、現在では解消事案として扱っています。

11月把握の1件は、行事活動中に嫌なあだ名で呼ばれたという事案でした。双方から気持ちを聞き取り、人間関係の修復や構築を図るとともに、事案の内容や指導状況について保護者にもお伝えしました。SNSの書き込み事案に関しては、事実を確認し保護者を交えての指導を進めてきました。本紙表面でも触れましたが、ほぼすべての生徒がスマホを持っている状況ですので、利活用のための約束や見守りが必要です。生徒は、安全に使うことや他に迷惑をかけるはいけないことは知識として知っています。PTA講演会で学んだ「想像力」「直感力」を働かせ、その場で生徒本人がよりよく判断することに期待したいです。もうしばらくは大人（保護者・教員）の見守りや支援が必要です。各家庭での声かけをよろしくお願いいたします。

以上、3つの調査とアンケートから見える学校・生徒の状況をお伝えしました。学校でも生徒のよい面を伸ばすとともに、継続して課題解決に取り組んでまいります。ご協力をお願いいたします。

地域の指導者をお迎えして…

新年試筆の練習(国語・書写)

12月18日(水)から3日間で各学年の書写(国語)の授業に地域の指導者であるM先生(小波渡)から来校いただきご指導を受けました。これまでの国語の授業でも生徒の皆さんの真剣な取り組みは目にしていましたが、今回、本間先生からご指導いただいているときの様子は、より生き生きしているように感じました。M先生から朱墨で添削してもらうときは、どこか嬉しそうな表情で受け答えしている姿が印象的でした。その道を究めた先生の指導がとてもの確で、生徒の皆さんの字がどんどん変わっていくことを感じました。地域の指導者を迎えて授業ができることはとても幸せなことです。この場をお借りして感謝申し上げます。1学期には1年生の技術(木工)の授業でS先生(三瀬)とI先生(由良)からもお世話になりました。あわせてご紹介いたします。

